

## [課程-2]

### 審査の結果の要旨

氏名 吉田 美香子

本研究は、腹圧性尿失禁の発症に関与する産後の骨盤底の機能低下に対して、経腹超音波検査装置を用いた骨盤底筋の運動学習支援を中心とした骨盤底回復支援プログラムを開発し、その有効性を評価することを目的としている。

閉経後の女性を対象に、腹圧性尿失禁の診断の有無により、骨盤底機能および、骨盤底筋と協調して収縮する腹横筋機能の比較を行い、腹圧性尿失禁の予防を見据えたプログラム内容を開発するとともに、プログラムの効果について、産後の女性を対象に、骨盤底の形態・機能の生理学的指標を用いた評価を試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 閉経後の女性を対象に、腹圧性尿失禁の診断の有無による腹横筋、骨盤底機能の比較を行った結果、腹圧性尿失禁を有する女性には、骨盤底の伸展が認められたが、明らかな腹横筋の機能低下はなかった。そのため、産後の骨盤底回復支援は、骨盤底筋の筋力強化に焦点を当て、経腹超音波検査装置を用いた骨盤底筋の収縮スキルの学習を進める教育、肯定的評価・励ましの支援が適切であることが示された。
2. 産後 3-6 か月に、週 1 回、計 12 回の経腹超音波検査装置によるバイオフィードバックを含んだ骨盤底回復支援プログラムを実施した。その結果、本プログラムの経過と共に、女性の骨盤底筋の収縮に関する運動学習が進み、訓練に対する自己効力感が向上することが示された。また、本プログラムにより、骨盤底筋の形態・機能や腹圧性尿失禁が改善し、特に、自宅での訓練の実施回数が多いほど骨盤底の収縮機能が改善することが示された。
3. 産後の腹圧性尿失禁や高齢初産経験の有無により、本プログラムによる骨盤底の形態・機能の回復効果に違いがあり、十分な回復効果を得るためには、個人特性に応じた訓練の工夫や訓練の継続を促す支援の必要性が示された。

以上、本論文は産後の骨盤底機能の回復において、経腹超音波検査装置を用いた骨盤底筋の運動学習支援が有効である可能性を初めて明らかにした。本研究は、骨盤底機能の回復訓練において訓練継続の支障となっていた骨盤底筋の運動学習の困難性を解決するひとつの方法を示した点で、今後の骨盤底訓練の発展に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。